

逍遙館長のところ

「赤穂義士討入と郷中教育、のころ」

12月14日 逍遙館

今日12月14日は、皆さん方もご存知、赤穂の四十七義士が主君の仇敵吉良邸へ討入した日です。毎年この時期、テレビでも良く放映されますね。

ところで、薩摩藩独特の異年齢集団による自主相互の教育であり、やがて明治維新の原動力ともなる薩摩藩の功績にも大きく貢献した「郷中教育」においても、その年の最終の年中行事である「義匠伝輪読会」の中で、この赤穂義士討入は、毎年今日の夕方から夜通し語る重要なテーマとなっていました。

折角ですので、そんな郷中教育の中で行われていた別メニュー「詮議」、今風に言うと「リスクマネジメント能力などを育成する実践的思考訓練」のようなものでしょうか、そんな「詮議」の当時のテーマ例をいくつかご紹介します。

- ◎ 無二の親友あり。果物又は物を持ち来り、汝と共に之を食して後、其の物は竊に盗み来りし事実を告げ汝に他言せざることを切望せしときは如何？
- ◎ 常に汝に悪口、無礼を加え、鬭争を挑むものあり。彼れ若し礼を以て汝に對するとき如何？

◎ 次回の予定 「そぞろ歩きはつづく、のころ」

